

ろっかしよ 議会だより



春堀り長芋の出荷で大忙しの長芋洗浄・選別貯蔵施設の様子

3 月 定 例 会	平成 26 年度定住促進と子育て支援・産業振興予算 133億8000万円の一般会計を可決 …… 2
	26 年度の新規事業に注目 定住促進・子育て支援の充実 …… 4
	26 年度の注目事業 生活に直結する事業をチェック …… 6
	一般質問 …… 10
6 月定例会開催予定 …… 12	

一般会計予算を可決

本村の学校給食は、昭和 58 年 4 月にスタートしました。建設して約 30 年が経過し、老朽化が著しい既存の学校給食センターは、昨年度から尾駈レイクタウン北地区の南側に移転新築工事を行い、建物はほぼ完成しました。今年度は、給食を作るための備品を整備し、今年の 2 学期からは新しい施設での学校給食がスタートすることになっています。

8 月から共用開始予定の給食センター

3 月定例会のあらまし

平成 26 年 3 月定例会は、3 月 4 日から 13 日までの 10 日間の会期で開催されました。

4 日の本会議初日は、古川健治村長が新年度予算を「定住促進と子育て支援・産業振興予算」と位置付け、「財政基盤の維持と公正で透明性の高い行政運営を基本」としながら、第 3 次総合振興計画に基づく重点施策について表明。

本定例会には、26 年度の 8 会計の当初予算をはじめ、25 年度の各会計補正予算、条例の制定および一部改正ならびに廃止、公共施設の指定管理者の指定など 43 件が上程され、いずれも原案どおり全会一致で可決されました。

また、一般質問には、高橋文雄議員が登壇し、漁業振興や防災対策について、厳しく問いただきました。

そのほか、「これからの勤労青年教育のあり方に関する要望」、「介護保険制度・要支援制度の公的支援存続を求める意見書の提出を求める陳情」、「特定秘密保護法の撤廃を求める意見書採択の陳情」、「垂直離着陸機 M V 22 オスプレイの配備撤回、低空飛行禁止を求める陳情」については、資料配布いたしました。

詳しくは、六ヶ所村 H P (<http://www.rokkasho.jp/>)

内の「六ヶ所村議会」[「会議録閲覧」](#)

をご覧ください。

平成 26 年度 定住促進と子育て支援・産業振興予算

133億8000万円の

各会計総額は約181億4000万円

前年度比19.8%減

当初予算の内容

予算の規模は、一般会計をはじめとする4つの特別会計ならびに3つ公営企業会計合わせて181億4000万円となり、前年度に対して181億4000万円、19.8%の減となりました。

一般会計は、総額133億8000万円、前年度に対し、43億8000万円、24.7%の減となりました。

歳入の主なもの、全体の約55%を占める村税で、総額は73億9000万円、その主なもの、固定資産税の62億8000万円となりました。

また、歳出には、小中学生の多様な教育環境への対応として、タブレット端末購入事業や子育て負担の軽減を目的とした学校給食費の無料化や小中学校入学時の祝金支給などの予算が盛り込まれました。

なお、村の25年度末の財政状況は、積立金が約77億円、一般会計の歳入の不足を補うための借入金58億3000万円、特別会計および公営企業会計を加えた借入金138億8000万円、26年度からは年間約10億円の償還が見込まれます。

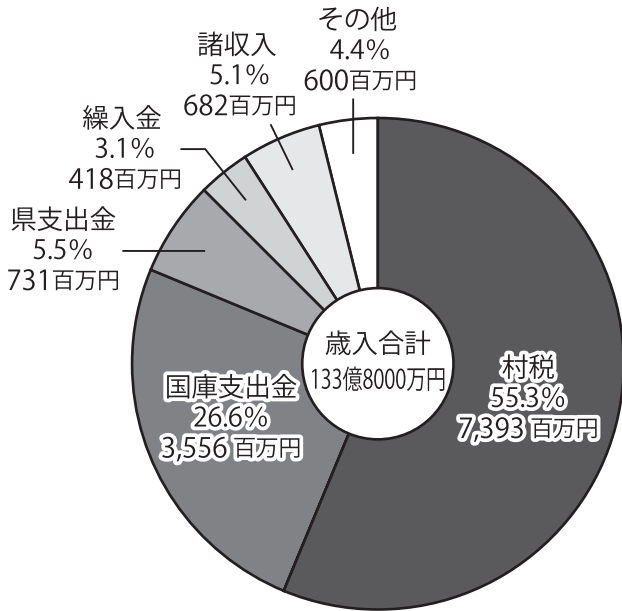
平成 26 年度各会計当初予算の状況

会計名	本年度予算額	前年度予算額	比較
一般会計	133億8000万円	177億6000万円	▲43億8000万円
国民健康保険特別会計 (事業勘定)	11億7409万9千円	11億9212万5千円	▲1802万6千円
後期高齢者医療特別会計	6973万5千円	6502万6千円	470万9千円
国民健康保険特別会計 (千歳平施設勘定)	8939万6千円	9204万7千円	▲265万1千円
介護保険特別会計 (保険事業勘定)	9億4486万2千円	8億9632万8千円	4853万4千円
水道事業会計	5億1365万3千円	5億9654万8千円	▲8289万5千円
農業集落排水事業会計	1億4670万7千円	1億1204万3千円	▲3466万4千円
下水道事業会計	18億2664万9千円	9億6232万1千円	8億6432万8千円
合計	181億4510万1千円	226億2994万7千円	▲44億8484万6千円

※ 尾駈レイクタウン北土地区画整理事業の完了に伴い、昨年度までの「定住促進特別会計」および「土地区画整理特別会計」は、26年度から廃止になりました。

定住促進子育て支援の充実

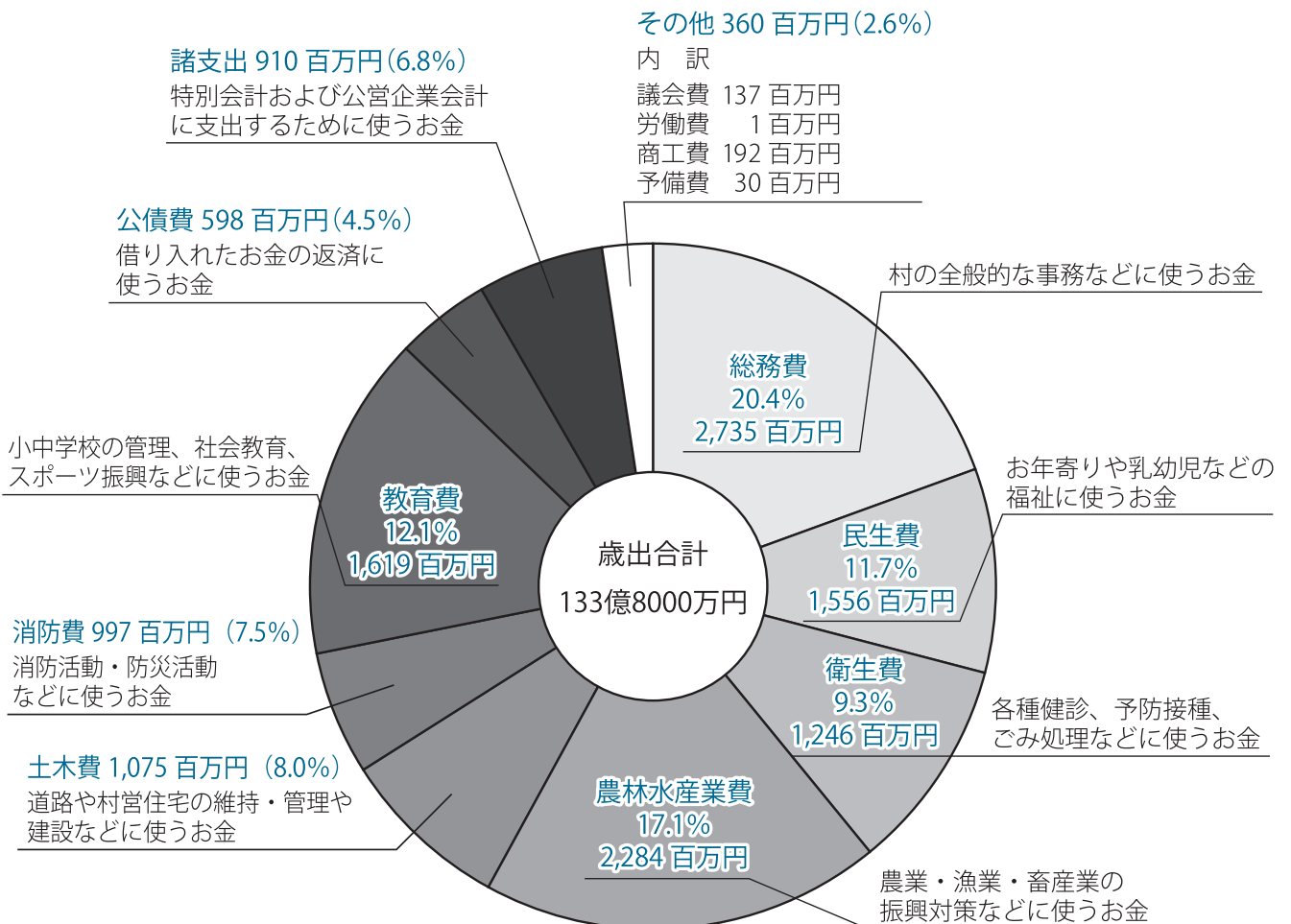
収入の内訳



昨年度は、(仮称)総合医療福祉施設や尾駈保育所、学校給食センターなどの大規模建設工事が集中したことから、一般会計当初予算額は約177億円となる大規模な予算編成となったのに対し、今年度は昨年比で約44億円減の133億8000万円となりました。

今年度は、本村への定住促進や子育て世帯への手厚い支援など新しいサービスが開始されました。

支出の内訳



平成 26 年度の新規事業に注目

子育て支援

学校給食費無料化事業

予算額：約4300万円

村内の小中学校の児童・生徒の保護者が負担する給食費（1食あたり、小学校が240円、中学校が260円）を村が補助し無料化にすることで、保護者の経済的負担の軽減を図るもの。

小中学校入学祝金給付事業

予算額：約1100万円

村への定住促進および少子高齢化対策に寄与するため、村内の小中学校へ入学する児童・生徒の保護者に入学祝金として5万円を支給し、入学時の経済的負担の軽減を図るもの。

教 育

タブレット端末購入事業

予算額：約2500万円

児童・生徒へのきめ細かな指導と意欲的に学習に取り組める環境整備を図るため、南小学校5・6年生および第二中学校の全学年を対象に、タブレット端末を試験導入し、教育成果の検証を行うもの。

教育環境整備事業

予算額：1960万円

すでに導入されている南小学校を除く全小中学校を対象に、児童・生徒の成長に合わせて高さ調整が可能な机・椅子を導入し、教育環境の向上を図るもの。

定住促進

住宅新築・リフォーム助成事業

予算額：3400万円

村内の居住者が、村内の建築業者と契約した場合に限り、住宅の新築をした場合は請負金額の3%（限度額100万円、40歳未満の方はさらに20万円加算）、リフォームの場合は、請負金額の10%（限度額20万円）を助成するもの。

人材育成

進学奨励金

予算額：1600万円

村の人材育成を目的に、積極的に進学し勉学に励む人を支援するため、就学した教育機関に応じた奨励金を交付するもので、大学入学時に10万円、高等学校・高等専門学校・短大などの入学時に5万円を支給するもの。

尾駈レイクタウン北地区分譲促進強化事業予算額：800万円

尾駈レイクタウン北地区を対象とした宅地購入助成制度（1㎡あたり3,800円）および新築助成制度（1㎡あたり7,500円）を維持しつつ、中学生以下の同居家族一人当たり20万円、65歳以上の同居家族一人当たり10万円を加算助成するもの。

また、村外からの転入世帯には、一律30万円を補助するもの。



分譲促進のため設置している案内板

※ 上記の事業の他にも、長芋のA品率を向上させるため、農業者に長芋の種子更新への助成や畜産農家の安定経営とブランド牛の確立を目的として、優良基礎繁殖牛の導入に対する補助事業なども実施されます。

また、継続事業としても様々なサービスを行っておりますので、4月に毎戸配付されました『暮らしのガイドブック』や村のホームページなどでご確認ください。

生活に直結する事業をチェック

福祉



本年8月の開所予定の地域医療センター

（仮称）総合医療福祉施設整備事業 約6700万円

本年8月の開所に向け、施設周辺の外構・植栽工事および医療情報システム整備などを行うもの。

高齢者無料入浴バス運行事業 約2300万円

高齢者のために、毎週火曜日と木曜日の2日間、村内の入浴施設への移動手段として、無料運行バスの配車サービスを行うもの。

高齢者入浴施設利用補助事業 約1300万円

70歳以上を対象に、村内の入浴施設の利用料を無料にしていることから、その利用実績に応じた金額を施設管理者に支払うもの。

教育



照明灯が改修される第3球場

総合運動公園第3球場照明灯改修事業 約7500万円

老朽化した総合運動公園内の第3球場の照明灯6基を改修するもの。

小中学生海外体験学習事業 約2600万円

中学生18人をアメリカに、小学生14人をオーストラリアに派遣し、ホームステイなどの体験学習を行うもの。

教育用パソコン購入事業 約3100万円

尾駈小学校および第二中学校のパソコンを更新するもの。

奨学資金貸与事業 約6000万円

経済的な理由により就学が困難な方へ資金を貸与する制度で、①高等学校は月額15000円、②専門学校月額3万円以内、③短期大学などは月額5万円、④大学は月額7万円、⑤大学院は月額10万円を限度に貸与するもの。

屋内温水プール整備事業 約1億4400万円

屋内温水プールを新設するために、土地の購入などを行うもの。



屋内温水プール完成予想図

平成26年度の注目事業

防 災



夜間照明が設置される泊中学校東側の急傾斜地階段路

急傾斜地階段路夜間照明設置工事
約320万円

津波などが発生した際の避難路として活用される泊地区の階段路に照明を設置するもの。

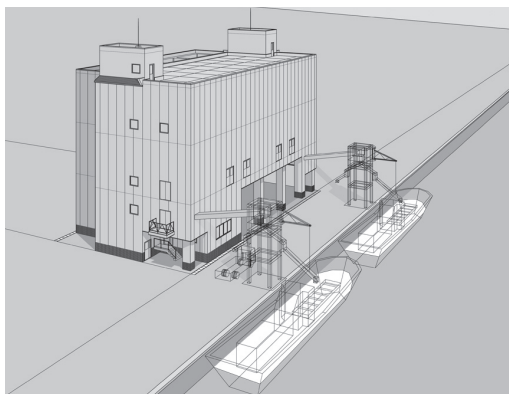
防災行政用無線施設更新整備事業
約3億4000万円

防災行政用無線の老朽化に伴い、同施設の固定系親局、屋外子局40局、遠隔制御局などをデジタル方式に更新するために工事するもの。各家庭に整備している戸別受信機は、来年度以降に更新する予定。

防犯灯新設等整備事業 780万円

村内の生活道路で、暗くて通行に支障のある場所や防犯上不安視される箇所などに、新たに防犯灯を設置するもの。

産 業



新しい製氷・貯氷施設の完成予想図

泊地区製氷・貯氷施設整備事業
約15億2000万円

既存施設の老朽化に伴い、27年3月末の完成に向け、建設工事を行うもの。

消費拡大助成補助金事業 650万円

地域の消費拡大を図るため、商品券1万2千円分を1万円で販売し、その差額分を助成するもの。

尾駮レイクサイドパーク整備事業
約6000万円

尾駮沼北側周辺の環境整備を行うため、具体的な設計を行うもの。



環境整備が計画されている尾駮沼北側

生 活

家庭ごみ収集運搬業務委託 約6000万円

村の分別収集計画に基づき、村内全域のごみ収集所に出された家庭ごみを、クリンペア・はまなすおよび一般廃棄物最終処分場に運搬するもの。

住宅用新エネルギー設備導入支援事業
480万円

太陽光発電設備を設置する村民に対して、24万円を上限に1キロワットあたり4万8千円を助成するもの。

除雪対策事業 約2億円

冬期間の交通確保のため、村内の村管理路線の除雪や凍結防止剤の散布を行うもの。

有機堆肥センター条例の一部改正

施設の管理および運営を効果的かつ効率的に行わせるために改正するもので、今回の改正では、販売する堆肥をこれまで重量単位としていたものを容積単位に変更したもの。
同施設で作った堆肥の販売価格は次のとおり。

種類	数量	金額
堆肥	1立方メートルあたり	3,000円
袋詰堆肥(30L)	1袋	360円
袋詰堆肥(20L)	1袋	320円



青森きゅう肥品評会で優秀賞を受賞(左が30L、右が20L)

ゲートボール場条例の一部改正

老朽化した「泊地区ゲートボール場」と「平沼地区ゲートボール場」を廃止するために改正するもの。

野菜センター条例の廃止

24年2月の雪害により、出戸地区にある野菜センターが倒壊したことから、同施設を廃止するもの。

へき地保育所条例の廃止

村内の戸鎖および倉内地区のへき地保育所は、老朽化が進んでいることから廃止するもの。

同施設の廃止に伴い、両地区の乳幼児は、尾駮保育所および平沼保育所に統合することになりました。



廃止になった戸鎖へきち保育所

指定管理

公の施設の指定管理は、村の公共施設のうち民間事業者などに管理・運営を委ねることで、サービス向上やコスト削減が期待できる施設を包括的に代行させるものです。

3月定例会では、本年4月から供用開

始される長芋洗浄選別貯蔵施設の指定管理者の指定について提出されました。

施設の名称および指定期間

六ヶ所村長芋洗浄選別貯蔵施設
26年4月1日～31年3月31日(5年間)

指定管理者

ゆうき青森農業協同組合



集荷した長芋を同施設で洗浄する様子

住民税非課税世帯を対象に

灯油購入助成に 737万円追加

補正予算の内容

一般会計補正予算の歳出は、民生費に生活弱者世帯などで住民税非課税世帯を対象に灯油購入助成金を計上し、農林水産業費には、長芋洗浄選別・貯蔵施設事業の確定による減額のほか、各事業の実績などに基づき所要の予算措置を講じたもので、歳入は、村税に法人税などの増収による追加計上し、歳出の減額による剰余金を財政調整基金に繰り戻し調整を行った結果、6億212万2千円を減額し、172億9101万5千円となりました。

また、国民健康保険特別会計（事業勘定）をはじめとする7特別会計および水道事業会計をはじめとする3企業会計については、年度末の精査に伴う所要の予算措置を講じたものです。

灯油等購入助成事業の概要

当事業は、原油価格高騰による高齢者世帯などの経済的負担を軽減するための支援を行うものであり、25年度は、「65歳以上の世帯」、「生活保護世帯」、「母子・父子世帯」、「重度身障者世帯」を対象に、灯油等購入助成金として1万円を支給するものです。

本年3月末までに申請の受付けをし、4月末には488世帯に給付し、当助成事業は終了いたしました。

平成25年度各会計補正予算の状況

会計名	補正前	補正額	補正後
一般会計	178億9313万7千円	▲6億212万2千円	172億9101万5千円
国民健康保険特別会計 (事業勘定)	12億3692万9千円	▲9181万9千円	11億4511万円
後期高齢者医療特別会計	6502万6千円	150万4千円	6653万円
国民健康保険特別会計 (尾駈施設勘定)	7億4709万7千円	▲424万2千円	7億4285万5千円
介護保険特別会計 (保険事業勘定)	8億9359万4千円	5734万6千円	9億5094万円
定住促進特別会計	2520万2千円	▲3340万円	2186万2千円
土地区画整理特別会計	1億8459万4千円	▲1604万8千円	1億6854万6千円
水道事業会計 (資本的支出)	3億7026万8千円	▲1200万円	3億5826万8千円
農業集落排水事業会計 (収益的支出)	7084万1千円	▲20万円	7064万1千円
農業集落排水事業会計 (資本的支出)	4120万2千円	▲60万円	4060万2千円
水道事業会計 (収益的支出)	4億392万2千円	▲70万円	4億322万2千円



高橋 文雄 議員

問 漁業振興対策をどのように考えるか

答 これまで行ってきた事業を継続して参りたい

漁業振興対策について、次の3点について伺いたい。

(1)漁獲量の減少は、漁業者だけでなく、それに係るすべての業種に影響を及ぼすことから、漁獲量の増大に向けた具体的な振興策を示せ。

(2)漁業振興対策調査のため平成18年度に北海道標津町などのさけ、ますふ化場を調査したが、ふ化場建設についてどのように考えているのか。

(3)沿岸海域に、魚類の繁殖を目的に人工魚礁を整備してきたが、その効果はどうか。

答 1点目については、村内の漁獲量は9年から年々減少傾向にあり、近年、海水の高温化などによる海洋環境の変化が全国的レベルで発生し、本村沿岸漁業の主力であるスルメイカ漁と秋サケ漁の総体的漁獲量の減少は漁業経営に影響があるものと認識している。

このことから、具体的

な取り組みとして、魚礁の整備や荷揚げ施設の整備などを実施してきた。

また、つくり育てる漁業を基本として、毎年10万匹を超えるヒラメの稚魚放流と収益性の高いウニ、アワビの種苗放流をしてきたところで、これらについては今後も継続していきたいと考えている。

泊地区のコンブの養殖事業が5年目となり、コンブの胞子の拡散により海の森を形成するなど、磯根資源の増大にも期待を寄せているところである。

2点目については、17年度に村独自でふ化場可能性調査を実施し、その検証を青森県に依頼したが、1,500万匹の生産規模の施設に対し、地下水の不足、低水温、さらには運営費の補助が見込めないなどの指摘があったことから見送ってきた。

現在は馬門川、老部川および市柳川の3河川でサケの稚魚それぞれ50万

匹ずつ計150万匹の放流を、地元小学生の水産教室を兼ねて毎年行っている。

また、良質な稚魚育成のため、泊漁協と海水漁協で合計150万匹の海中飼育を実施し、より大きく成長させ放流することで、回帰率の向上を目指しているところでもある。これらについては、有効な手段として継続して参りたい。

今後は、河川水を活用した環境に優しく、簡易で工夫された施設の整備が可能かどうかについて、様々な面から調査して参りたい。

3点目については、昭和52年の角形魚礁をはじめとし、ジャンボ礁、ヤリイカ礁などの各種魚礁を、おもに泊沖と出戸沖に整備してきた。人工魚礁は天敵から身を守るシェルターとして小魚が住み着くことにより、水産資源の保護と増殖に効果のある施設である。その効果は、数字であらわすことが難しいものの、



老部川上流に鮭の稚魚を放流する尾駱小学校の児童

釣りによる調査、遠隔水中カメラ調査や魚群探知機調査などの方法があり、16年度に設置した魚礁を撮影した映像では、周辺の砂地では見えない魚影が、魚礁ではソイ、アブラメなどの稚魚、成魚が多数生息していることが確認されたところである。



全面的な改修に向け調査する地域交流ホーム

問 地域交流ホームの脱衣所の改修を行うべきではないか
答 構造上の制約もあるが、村民の利用しやすい施設としたい

問 地域交流ホームの浴場施設は、老人の入浴料無料制度などにより利用者が増加しているが、脱衣所が狭いことから混雑が常態化している状況で

答 ある。利用者の利便性を考慮し、早急に脱衣所の改修をすべきと思うがどうか。

答 地域交流ホームは、村民の交流活動、スポーツおよび文化活動の場を提供し、村民の社会福祉サービスに寄与することを目的に、12年4月に供用開始している施設である。

その後、浴場の利用時間延長の要望を受け閉館時間を午後9時までとするなど、サービスの向上に努めてきたところで、近年は、年間3万人前後の方々に利用していただいているところである。

特に、火曜日は泊地区ふれあいセンターの浴場が休業日であることから、大変混雑している状況となっている。

本施設は、供用開始から14年が経過していることから、26年度には全面的な改修工事に向けた実施設計をすることとしている。

脱衣所の改修には構造上の制約もあるが、村民が利用しやすい施設となるよう努めて参りたい。

問 泊・尾駸間の道路整備をどのように考えるか
答 最優先課題と位置付け、努力していく

問 泊から尾駸までの区間は国道338号の基幹道路があるだけで、大規模な災害によって道路が寸断されたときには迂回道路もない状況である。

答 震災以降、飲料水の確保、非常電源の対策、緊急通報の迅速化などについて整備が進められてきたが、泊・尾駸間の避難道路については、いまだに整備した実績が見当たらない。

問 道路整備を早急に進めるべきと思うが、村長はどのように考えるか。

答 地震・津波などの自然災害をはじめ、原子力災害が発生した場合、住民の避難や救援物資の輸送など、住民の安全と安心確保のための様々な防護措置活動に道路整備は最も重要であると考え

ご指摘の路線は、東通原子力発電所での事故が発生した場合、本村の最大集落である泊地区住民に加え、東通村からの避難者が唯一利用することのできる国道338号に避難車両が集中することで緊急車両などの通行に支障を生じることや、津波などの自然災害による通行遮断で集落が孤立することが予想されることから、重要性・必要性を十分認識しているところである。

一方、万が一の災害に備えた避難道路として活用するため、現在ある農道などを可能な部分から整備していくとの基本的考えから、集落のある地区を優先して、石川地区農道を26年度から27年度で整備する予定で、他の部分は順次整備を検討して参りたい。

村では、国・県に対し、国道338号の整備促進に関する要望書を提出して対応してきたほか、全国原子力発電所所在市町村協議会、市町村長会議、エネルギーの道国道338号整備促進期成会などを通じて避難道路の整備を要望してきた。

また、原子力災害への対応と災害に強い交通網を確立するため、県道泊陸奥横浜停車場線を通年通行が可能な路線として早急に整備していただくことを趣旨に、25年5月に本村と横浜町および東通村の3カ町村で県道泊陸奥横浜停車場線整備促進協議会を設立し、県知事に要望書を提出したところでもある。

今後、地域住民のさらなる安全安心の構築のため、関係機関への要望活動を継続し、早期整備に向けて引き続き最優先課題として位置付け、努力して参りたい。

議会も応援します 泊中陸上部

泊中学校の陸上部は、これまで上北地方中体連夏季大会で1回、同新人戦で3回の総合優勝をおさめています。

昨年は、上北地方中体連夏季大会の男子フィールド総合優勝、男子共通400mリレーで優勝を果たしたほか、同青森県大会においては、三浦健太君が1500mで優勝し、青森県民駅伝大会では六ヶ所村の代表選手としても活躍しました。

そして秋の上北地方中体連新人戦において、男子フィールド総合3連覇、同青森県大会では赤石晃州君が走高跳で、上野将馬君が砲丸投でともに2連覇を果たし、今年の中体連夏季大会に期待が持てる結果となりました。

また、砲丸投で優勝した上野君は、昨年、神奈川県で開催されたジュニアオリンピック陸上競技大会で、全国第8位の好成績を残し、今後の活躍が楽しみな選手であります。

今年も、中学生のスポーツの祭典ともいえる中体連夏季大会の季節がやって参りました。

泊中学校の陸上部は、上北地方での総合優勝は勿論のこと、青森県の頂点を目指して、日々、練習に励んでおります。

皆さんの温かいご声援をご期待いたします。
(文責 赴任4年目を迎えた泊中陸上部顧問)



村のスポーツ賞などを受賞した泊中陸上部員 (本年2月撮影)

昨年のの中体連新人戦の優勝者ならびに記録

氏名	種目	記録
赤石晃州	2年男子走高跳	1m70
上野将馬	2年男子砲丸投	11m48
加藤駿平	共通男子棒高跳	2m20
相内大夢	共通男子4種競技	1151点
玉川湊太	2年男子200m	24秒57

赤字は大会記録

このコーナーでは、村内のスポーツや芸術など様々な活動を紹介していきます。掲載を希望される方は、議会事務局まで連絡ください。

6月定例会会期日程(案)

日 程	月 日 (曜日)	区 分	会 議 内 容
第1日目	6月6日(金)	本会議(午前10時)	開会、提出議案上程・説明、委員会付託
第2日目	6月7日(土)	休日休会	
第3日目	6月8日(日)	休日休会	
第4日目	6月9日(月)	本会議(午前10時)	一般質問
第5日目	6月10日(火)	休 会	常任委員会 ^{※1}
第6日目	6月11日(水)	休 会	特別委員会 ^{※1}
第7日目	6月12日(木)	本会議(午前10時)	議案審議
第8日目	6月13日(金)	本会議(午前10時)	議案審議、委員長報告、閉会

※1 各委員会の開催時間などについては、決まり次第、ホームページでお知らせします。 ※議会の日程は、変更されることがあります。

議会を監視するのは『あなた』です。
3月定例会の傍聴人は56人でした。
あなたも議会の傍聴をしてみませんか。
傍聴は村政を知る良い機会です。

定例会は、3月、6月、9月、12月の年4回開催されます。
臨時会は必要に応じて開催されます。
詳しくは議会事務局 Tel 72 - 2111 (内線 411 または 412) へお尋ねください。

議会傍聴

六ヶ所村議会広報委員会
委員長 岡村 廣正
副委員長 鳥谷 勝正
委員 高田 義隆
委員 山田 博光

本誌面では、泊中学校の陸上部をご紹介いたしました。6月20日から上北郡中体連が開催されます。どの学校も大会に向けて一生懸命練習に励んでおられると思います。3年生にとっては最後の中体連です。悔いが残らないように全力で頑張ってください。村内全中学校全種目のご健闘を心からお祈りいたします。

議会だより28号をお届けします。昨年は、大規模な建設工事が集中したこと、これまでにない170億円を超える大型予算が執行されました。26年度当初予算は、「子育て支援」や「定住促進」に重点を置いた新しいサービスがスタートいたしました。本年4月からスタートした消費税増税による家計への不安などから、3月末にはまだ買いたたけ、消費行動が停滞している状況が、村の不安を取り組みが、村の不安解消となり、将来的には出生率の向上や人口減少の歯止めとなることを期待しております。

編集後記